

中期経営計画 GLP2023

濱田 宏一

アンリツ株式会社
代表取締役 社長

2021年4月27日



東証第1部：6754
<https://www.anritsu.com>

(ノート部記載なし)

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

(ノート部記載なし)

目 次

1. FY2030の目指す姿
2. GLP2023重点分野
3. 売上高・営業利益計画
4. サステナビリティ目標 (SDGs)
5. AK Radio Design株式会社を共同出資で設立
6. T&M事業
7. PQA事業

(ノート部記載なし)

1. FY2030の目指す姿

経営ビジョン：「はかる」を超える。限界を超える。共に持続可能な未来へ。

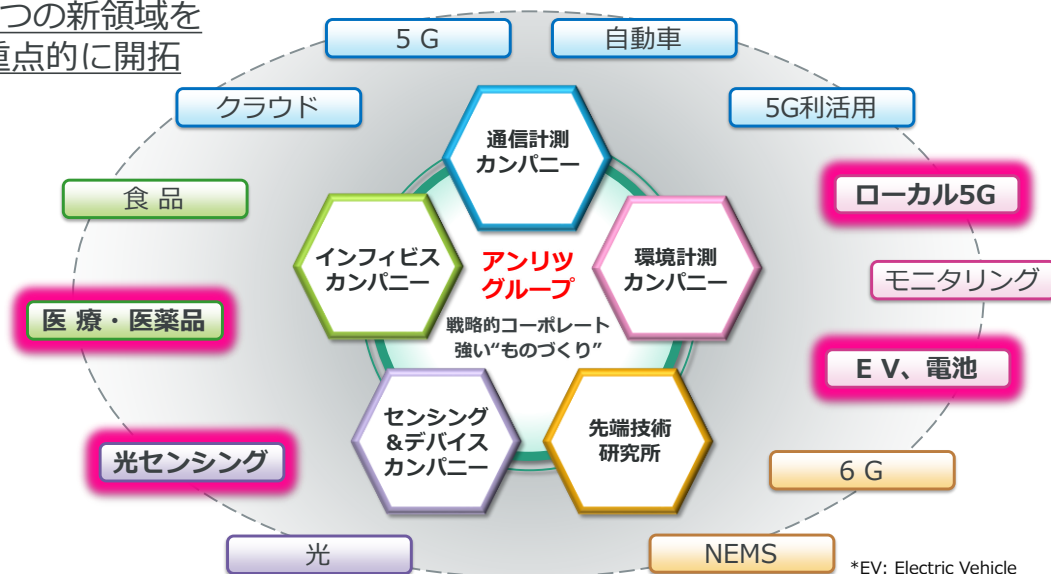


今年度、当社は、新経営ビジョンと新三カ年計画GLP2023をスタート致します。当社のコンピテンシーである「はかる」を極めていくと共に、内外の異なる発想や技術をさらに掛け合わせ、従来の「はかる」を超えた価値や新領域を開拓していくことで次の事業の柱を成長させ、攻めの姿勢で今までのアンリツの限界を超えていきます。そして関係するあらゆるステークホルダーと共に持続可能で魅力的な未来を次世代に繋いでいく思いを新経営ビジョンに込めました。

この経営ビジョンの下、アンリツグループは、2,000億円企業を目指していきます。

2. GLP2023重点分野

4つの新領域を
重点的に開拓



*インフィビスカンパニー：PQA事業の推進

*EV: Electric Vehicle

*NEMS: Nano Electro Mechanical Systems

ANRITSU CORPORATION

GLP2023 5

GLP2023の3年間は、「5Gのピークに向けた成長の3年」であり、「新たな芽を成長させる3年」でもあります。重点的に成長させる4つの分野は 1) EV、電池測定 2) ローカル5G 3) 光センシング 4) 医療、医薬品です。それぞれの分野で外部との連携やM&Aを行い、成長を加速させていきます。またその先の将来も見据えて6GやNEMSの基礎研究も開始しています。組織の枠を超え、会社の枠を超え、今までの概念に縛られず、前進する所存です。

3. 売上高・営業利益計画

指標		FY2020	FY2021	FY2023
売上高		1,059 億円	1,140 億円	1,400 億円
営業利益		197 億円	205 億円	270 億円
営業利益率		19 %	18 %	19 %
当期利益		161 億円	162 億円	200 億円
ROE		16 %	14 %	15 %
T&M 事業	売上高	748 億円	820 億円	1,000 億円
	営業利益	177 億円	185 億円	230 億円
	営業利益率	24 %	23 %	23 %
PQA 事業	売上高	214 億円	230 億円	270 億円
	営業利益	13 億円	18 億円	27 億円
	営業利益率	6 %	8 %	10 %

GLP2023

(参考) GLP2023想定為替レート：1米ドル=105円、1ユーロ=125円

2023年度のグループ目標として連結売上高1,400億円、営業利益270億円、連結営業利益率19%、当期利益200億円、ROE15%の目標達成に取り組みます。

4. サステナビリティ目標 (SDGs)

目標・取組		GLP2023:KPI
E 環境	温室効果ガス削減に向けた長期計画と取組	- 温室効果ガス (Scope1+2) : 2015年度比23%削減 - 温室効果ガス (Scope3) : 2018年度比13%削減 …2030年度で30%削減
	自家発電比率の向上 (PGRE 30)	自家発電比率 : 13%以上 … 2030年ごろまでに30%程度まで高める
S 社会	ダイバーシティ経営の推進	- 女性の活躍推進 : 女性幹部職比率15%以上 - 高齢者活躍推進 : 70歳までの雇用及び新処遇制度確立 - 障がい者雇用促進 : 職域開発による法定雇用率2.3%達成
	グローバルなCSR調達の推進	- サプライチェーン・デューデリジェンスの強化 : 3年累積10社以上 - CSR調達に係るサプライヤーへの情報発信2回/年以上、教育1回/年以上
G ガバナンス	グローバルなガバナンス力向上	取締役会の多様性の推進、社外取締役比率50%以上
	海外子会社の内部統制構築推進	全海外子会社が統制自己評価 (CSA) の基準を満たす

ANRITSU CORPORATION

GLP2023

7

ESG	目標・取組	2020年度までの実績
E	温室効果ガス削減に向けた長期計画と取組	温室効果ガス (Scope 1 + 2) : 2015年度比17.6%削減 (2019年度実績) 温室効果ガス (Scope 3) : 2018年度比4.4%削減 (2019年度実績)
	自家発電比率の向上 (PGRE 30)	自家発電比率 : 4.3% (2020年度推定)
S	ダイバーシティ経営の推進	女性の活躍推進 : 女性幹部職比率10.8% (2021年3月末時点) 高齢者活躍推進 : 65歳までの雇用延長制度 障がい者雇用促進 : 法定雇用率2.0% (2021年3月末時点)
	グローバルなCSR調達の推進	サプライチェーン・デューデリジェンスの強化 : 0社 (2020年度実績) * 2020年度は新型コロナ感染拡大の影響で、実施出来ず。 GLP2020の3年間累積実績 : 4社 CSR調達に係るサプライヤーへの情報発信2回、教育1回 (2020年度実績)
G	グローバルなガバナンス力向上	取締役会の多様性の推進 : 社外取締役比率44% (4人/9人) (2021年3月末時点)
	海外子会社の内部統制構築推進	全海外子会社が統制自己評価 (CSA) の基準を満たす : 2020年度より活動開始

5. AK Radio Design株式会社を共同出資で設立

Anritsu
Advancing beyond

■ 設立会社の概要（予定）

- ・ 会社名：AK Radio Design株式会社
- ・ 所在地：神奈川県厚木市（アンリツ本社地区内）
- ・ 設立日：2021年6月
- ・ 出資比率：アンリツ株式会社 50%、
株式会社構造計画研究所 50%

Anritsu Advancing beyond
通信計測機器・実測サービス



構造計画研究所
KOZO KEIKAKU ENGINEERING Inc.
シミュレータ・解析サービス

ネットワークの遅延測定・障害解析サービス

ロボットのリモート操作の為に遅延時間を測定等



MT1000A ネットワークマスタプロ

ネットワーク
シミュレーション
QualNet®

カバーエリア設計・評価サービス

通信エリアの電界強度測定



ML8780A/81A エリアテスタ

免許申請用電力分布計算



電波干渉シミュレーションおよび測定サービス



MS2090A フィールドマスタプロ

電波伝搬シミュレーション



計測器による実測サービスとシミュレーションによる解析サービスをワンストップで提供

アンリツ株式会社と株式会社構造計画研究所は、共同出資によりAK Radio Design株式会社を設立し、ローカル5G導入で必須の免許申請・取得のための支援、および導入後の運用プロセスの支援をご提供します。

提供ソリューションは、ローカル5Gを設置する事業者やシステムインテグレータ向けに、導入時のカバーエリア設計や実測評価、また運用時の電波干渉のシミュレーションや測定、ネットワークの遅延測定や障害解析といった、実測および解析のワンストップサービスです。

今後もアンリツはローカル5Gの普及加速に貢献していきます。

6.T&M事業

島 岳史

アンリツ株式会社
取締役 常務執行役員
通信計測カンパニー プレジデント

(ノート部記載なし)

ビジョン

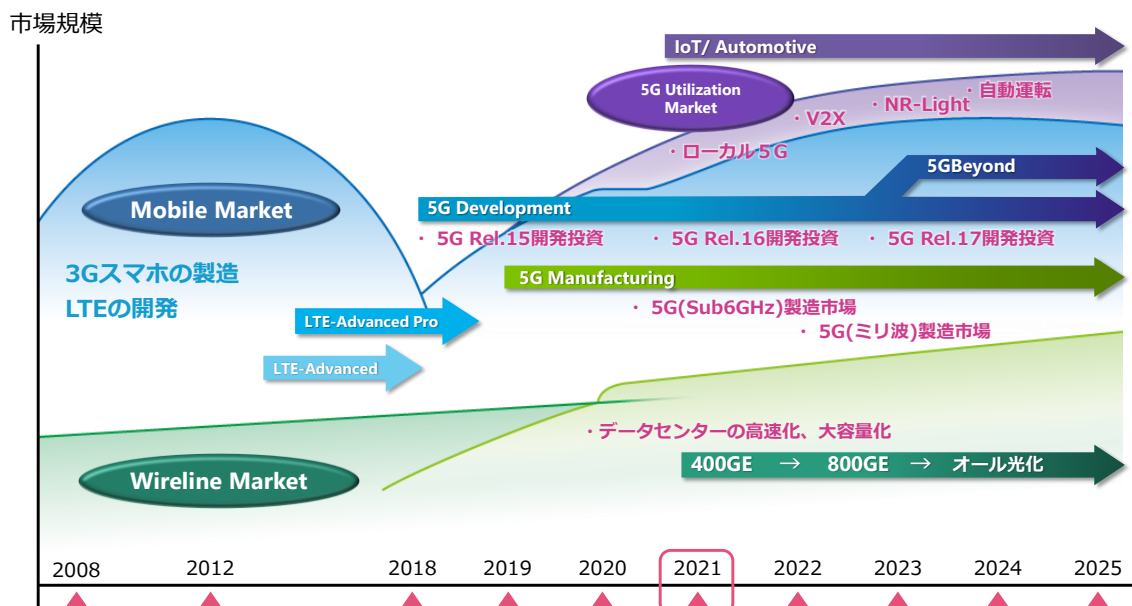
5Gで構築される通信社会を支えるリーディングカンパニーになる

計画達成に向けた方針

- 5G利活用分野とネットワークインフラ市場での事業比率を上げる
- 「測る」ツール提供型ソリューションから「測って解決する」価値提供型ソリューションへの変革を進める
- 成長分野（5GBeyond、自動運転、ORAN/IOWN）への投資を拡大する

（ノート部記載なし）

6-2. T&M事業：計測市場トレンドと事業機会

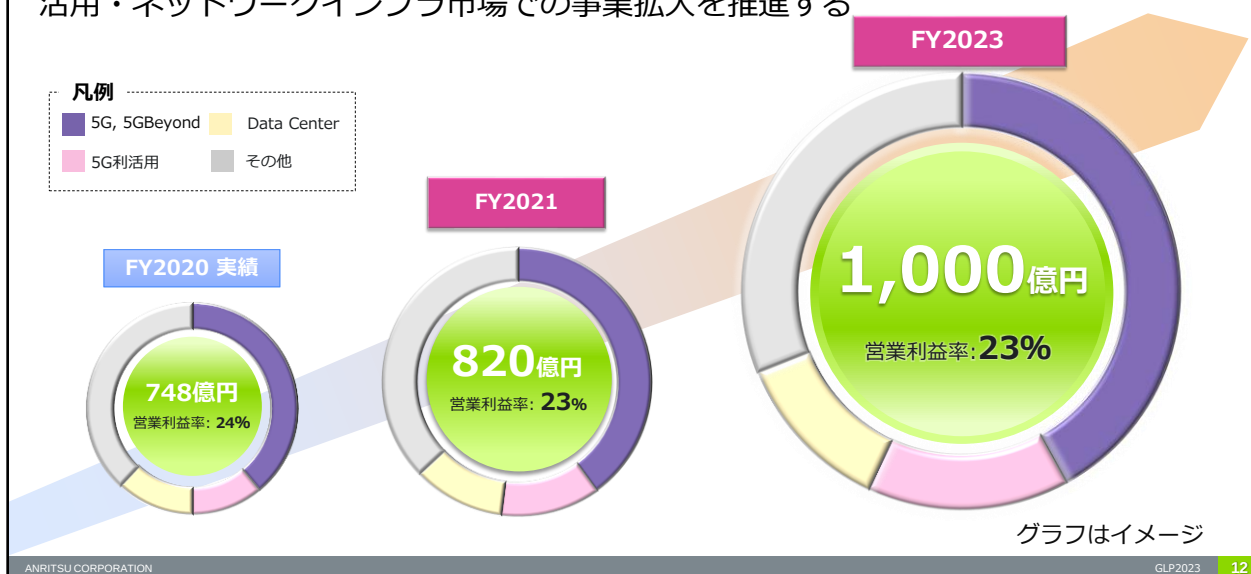


モバイル計測市場は、世界各国の5Gサービスの拡充により、今後も関連需要が拡大していくことが見込まれます。

5Gでは、Sub6GHzとミリ波の2つの周波数帯が使われます。モバイル計測市場のうち、スマートフォン計測市場としては、2018年に韓国や中国でサービスが開始されたSub6GHzの市場が立ち上がりました。一方、ミリ波は、2018年にアメリカでサービスが始まりましたが、ミリ波特有の「障害物に遮られやすい」、「遠くに届きにくい」等の特性から、サービスのエリア展開が遅れています。ミリ波の移動体での利用に関しては更なる技術の成熟が必要であり、スタジアム内等での限定された地域や場所でのサービスから、徐々に広範囲のサービスに移行していくと考えております。そのため、スマートフォン計測市場の需要は、Sub6GHz関連は2023年頃にピークとなり、ミリ波に関してはその1年後ぐらいに需要のピークが来るとみております。スマートフォン市場では、その後、5GBeyondへの展開を見込んでいます。また、5G利活用の領域として、3GPPリリース16の標準化により、IoT/Automotive/ローカル5Gなどの新たな市場が拡大していくことが期待されます。

6-3. T&M事業：GLP2023売上高・営業利益計画

5Gピークに向けた3年間の需要をとらえ、スマホ・5G利活用・ネットワークインフラ市場での事業拡大を推進する



T&M事業のGLP2023売上高・営業利益計画です。
FY2023に3つの成長ドライバーである5G、5G利活用、データセンターの売上割合を拡大し、売上高1,000億円、営業利益率23%の達成を目指します。

7. PQA事業

新美 眞澄

アンリツ株式会社

取締役 常務執行役員

PQA事業グループ プレジデント

(ノート部記載なし)

7-1. PQA事業：中期経営計画(GLP2020) レビュー

市場トレンド

食品市場では新型コロナウイルス感染拡大に伴う先行きの不透明感から、一部の顧客が引き続き設備投資に慎重な姿勢がみられるものの、「安全・安心」や社会課題（SDGs）である「生産性向上と食品ロスの低減」への投資はコロナ収束と共に世界的に拡大していくと予測

方針のレビュー

- ・「顧客要求にマッチした世界No.1性能機器の継続投入」は継続中

グローバル顧客とのコラボレーションでX線検査機の高度化にフォーカスし、新センサー開発、AI活用による画像認識・信号解析技術を高度化中。業界全体への浸透はこれから。

- ・「グローバル企業への変革」は新型コロナウイルスの影響で遅れぎみ

安定性成長する欧州、米州の主力市場と成長率が高い中国市場にフォーカスし、サプライチェーン強化に投資するも、欧州、米州は新型コロナウイルス感染症拡大も影響し計画は遅れ気味。

- ・「業界トップレベルの営業利益率実現」のための医薬品市場参入には時間を要す

主力のX線検査機は国内外の顧客に大型投資への慎重な姿勢がみられ伸び悩む。重点的に開拓中の医薬品市場はグローバル展開のためのマーケティングや販売力強化に時間を要す。

（ノート部記載なし）

ビジョン

**持続可能な未来へ向けて、世界中のお客様から
最も信頼される品質保証の First-to-Call カンパニーになる**

計画達成に向けた方針

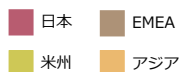
- 「安全・安心の追求」、「生産性の向上と食品ロス削減」などお客様企業の重要課題を解消するソリューションを創造する
- “はかる”を超える価値創造で最も信頼される商品とサービスの提供、ローカライゼーションによる世界各地ニーズへの的確で迅速な対応
- X線検査機の高度化による高付加価値ソリューションの拡大、重点分野の医薬品市場のグローバル拡大と業務革新により利益体質強化を図る

(ノート部記載なし)

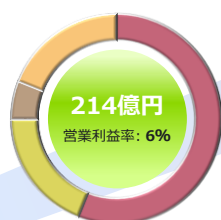
7-3. PQA事業：GLP2023売上高・営業利益計画

- ・お客様企業の重要課題を解消するソリューションの創造
- ・はかるを超える価値創造、世界各地ニーズに的確で迅速対応
- ・X線検査機の高度化、医薬品市場拡大と業務革新で利益体質

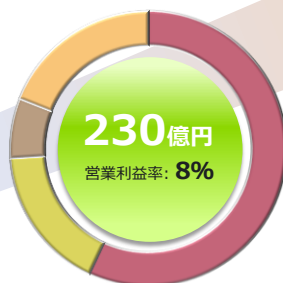
凡例



FY2020 実績



FY2021



FY2023



グラフはイメージ

(ノート部記載なし)



(ノート部記載なし)